

# 秋の野花の“動物”さがし

名前を知るとは、植物と仲良くなる第一歩。種名を覚えるのはとても大変ですが、面白いネーミングの植物は印象に残りやすいものです。特に私は、動物の名前の入った和名に心が惹かれます。ペットや家畜、里山の野生動物など、どれも身近な動物ばかりです。植物の和名から、かつての人と動物の関わりに想像を巡らせてみて下さいね!

## イヌコウジュ(犬香需)

「香需」はナギナタコウジュなどの生薬名です。これに対して、薬草としての価値がなく、役に立たないことから名付けられました。植物名に登場する犬は、「役に立たない」、「偽物」といった意味で用いられることが多く、気の毒な存在です。



## キツネノマゴ(狐の孫)

道ばたなど、どこにでもある身近な雑草の一つです。花の咲き終わった後の花序が、「キツネの尻尾」を連想させることから名付けられました。とはいっても、ひときわミニチュアサイズの尻尾なので、「孫」と表現したのかもかもしれません。



## ネコハギ(猫萩)

大型のマメ科植物、イヌハギに対して、草丈がずっと小さいことからネコハギと名付けられました。茎や葉にびっしりと毛が生えており、その様子もなんとなく猫を連想させます。招き猫のように立ち上がる、タチネコハギという変種も存在します。



## ヒカゲイノコヅチ(日陰猪子槌)

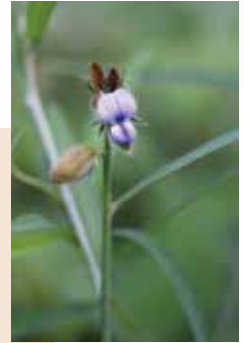
和名の由来は諸説あります。そのうちの一つに、茎の節に虫こぶ(イノコヅチクマルズイフシ)ができて膨らんだ様子を、「猪の子槌」、つまり、「幼いイノシシのかかと」に例えたのではないかといいものがあります。想像力の豊かさに驚きますね。



イノコヅチクマルズイフシ

## ウシノシッペイ(牛の竹箆)

振り返った花穂の様子が、まるで「牛追いの使う竹箆(しっぺい)」のように見えることから名付けられました。竹箆とはあまり聞き慣れない言葉ですが、禅の修行中にうっかり居眠りをするとすかさず叩かれる、あの弓状の竹棒のことです。



## タヌキマメ(狸豆)

神出鬼没なマメ科の一年草です。長池公園では毎年、種子を採り蒔きして保護しています。和名の由来は、可愛い花の形からとも、フワフワな果実の様子からともいわれています。皆さんはどちらがタヌキに見えますでしょうか?



## ネズミノオ(鼠の尾)

夏の終わり頃、空き地や道ばたでよく見かけるイネ科の雑草です。花序の枝が軸に圧着して細長い穂状となり、和名はこの様子を「ネズミの尻尾」に例えたものです。以前と比べて、ネズミを見かける機会はずいぶん減ったように思います。



## ブタクサ(豚草)

花粉症のアレルゲンとしても有名なブタクサですが、じつは和名の由来ははっきりしていません。英名の俗名である「hogweed」の直訳とする説が一般的ですが、ブタクサの英名は「ragweed」です。豚はいったいどこからきたのでしょうか?

